

スペインはこれまで旅した中でもおもしろい国だったな。果物は毎てうまい。ランチには水餃子とワインがセットでついていて、
ガウディ建築は見たに十分。そして何と書いてもバレンシアの火祭り(フグーミエ)、大興奮でした。宿がどこも満で。駅のベンチがよかったです。

自問自答

その23

発行人: 普段サッカーはみてないけれど

令和4年12月5日(月)

広島市立己斐上中学校 進路通信

さすがに「おふ!!」と感動。まさかスペイン倒す
ては... 9



1個 1000 円のリンゴ

について書いてみますか。

実際経験してみてもうでしたか? 私自身、検査官をやってみて感じたことは、やはり用意した原稿をただ読まれるだけでは、ほとんど印象に残らない! それは私の年齢による短期記憶の問題じゃないのか、という指摘もあろうが、そのことを加味してもやはり印象には残らない。発表(表現)の仕方には一工夫入れた方が良さそうですね。(評価観点の3つ目か)

もちろん準備不足の人は、話を聞いてみると、さすがにすぐ見抜ける。旅先の観光地で、初対面にも関わらず、「オ～、マイフレンド!!」と目だけは笑っていない笑顔で握手を求めながら近づいてくる人が、決して「フレンド」ではないことぐらい簡単にわかる。

発表の中身のポイントは、ただやってきたことを述べるのではなく(授業でも言ったように、生徒会や部活動、ボランティア活動の経験や実績自体が評価にはならない)、その取り組みに向けて自分がどう取り組んだのか、そこで気づいたことや学んだことは何なのか、これが評価観点の1つ目みたいです。(ちなみに観点の2つ目は、夢や目標、やりたいことを自分決定しているか)

ここでね、今回のお話なんですが、新たに導入された「自己表現テスト」をどう捉えるか、なんですよ。

「なんで自分の時からこんなテストが始まるんや～(泣)」と考えるのか、「チャンスやん、初めて実施されるってことは、一工夫するだけで 5・5・5 っていけるんじゃないか」「もしかしたらこの機会って自分が成長するチャンスじゃん」と考えるのか。実施されるという事実は変わらないのです。であるならば「じゃあ、どうするか」という次の一手を前向きに考えた方が人生は断然面白い。

以前、超大型台風が直撃し、東北地方で収穫直前のリンゴが大打撃を受けた。あと少して収穫というところで9割ものリンゴが木から落ちた。これでは売り物にならない。農家の人々は大いに落胆した。ただ、その中に次の一手を前向きに考えた人がいた。「売ろう!! 落ちなかったリンゴを『あの台風でも落ちなかったリンゴ』として売ろう!! 1個 1000 円で!!」

これが受験を控えた学生や親に「落ちないお守り」としてバカ売れ。通常1個100円で売られるリンゴが1個1000円でも売れに売れた。そしてみごと完売。

台風で大打撃を受けた、という事実は変わらないのです。落ちた9割のリンゴに目を向けたのか、落ちなかった1割のリンゴに目を向けたのか、そして1割のリンゴを見て「これだけしか残らんかった」とため息をつくのか、何か次の一手はないかと前向きに考えるのか。目の前に起こる事実は誰にとっても同じなんですけど、その事実の捉え方で人生はこうも変わるのか、という一例です。これからも皆さんの前には次から次へとある「事実」が起こります。それらを全てチャンスだと捉えれば、人生は相当おもしろくなるで～(へ)